

ト 小作地ヨリ當分小作料ヲ徵收セザルコト。
(2) 家屋及宅地

- イ 讓渡地又ハ小作地内ニ於テ百分ノ一以内ノ宅地ヲ割當テ、之ニ約十坪以内ノ移民家屋ヲ建築貸與スルコト(家屋建築費約百五十圓トス)。
- ロ 右家屋ハ、三年据置四年目ヨリ十箇年賦ヲ以テ、建築實費ヨリ官ノ補助額ヲ控除シタル額ヲ以テ移民ニ讓渡スルコト。

(3) 其ノ他

- イ 旅費ハ最低額ニテ實費支給ノコト。
- ロ 農具ハ三十圓以内ノモノヲ實物ニテ支給スルコト。
- ハ 耕牛一頭百三十圓内外ノモノヲ貸與スルコト。

(丙) 樺太

▲ 概説

樺太ニ於テ移民ヲ收容シ得ヘキ農牧適地ハ概算四十五萬町歩ト稱セララルモ、人口甚ダ稀薄ニシテ、其ノ開發ハ一ニ内地人ノ移植ニ依ラザルベカラザル爲、領有ノ年即チ明治三十八年ヨリ直ニ殖民地選定ノ調査ニ著手シ、大正十四年末迄ニ選定ヲ了シタル面積ハ、約二十一萬町歩ニ上レリ。此ノ間種々ノ保護的施設ニ依リテ移民ノ招致ニ力メタル結果、大正十二年末迄ニ移住シタル戸數一萬二千ヲ超ヘ、中途歸國者ヲ除キ、大正十四年末現在移民數ハ八三七八戸四〇、五〇八人ニ上レリ。以上ハ單ニ農業者ノミニ關スル數ナレドモ、之ヲ他ノ水産業、林業、商業、工業等ト合セ、總體ニ於ケル移民ニ付テ見レバ、實ニ著シキ増加ニシテ年々約五六千人、多キハ一萬人ヲ超ユルコトアリ。而シテ明治三十

九年現在一萬八百六人ノ内地人ガ、約十九年間即チ大正十四年末ニ於テハ、實ニ十八萬三千七百四十二人ヲ算スルニ至レリ。

B 將來ノ移民計畫及移民收容力

本島ハ、領有以來住民ノ移住土著ヲ獎勵シ、其ノ結果人口今ヤ約二十萬ヲ算シ、各種施設ノ整備ニ伴ヒ、産業年ト共ニ隆盛ニ向ヒ、人口ノ増加著シキモノアリト雖モ、其ノ密度ハ未ダ一方里八十七人ニ過ギズ。移民ノ收容ヲ要スルコト極メテ切ナルモノアルヲ以テ、樺太廳ニ於テハ、大正十五年度以降二十年間ヲ期シ、農民五萬戸(二十五萬人)、漁民一萬戸(五萬人)、工業鑛業商業者其ノ他六萬戸(三十萬人)、計十二萬戸(六十萬人)ヲ移殖セシメント努力シツツアリ。即チ概算四十五萬町歩ノ殖民豫定地ニ付、年年選定調査竝ニ區劃測設ヲ續行シ、其ノ他各種ノ移民獎勵施設ニ依リ、移住民ヲ招致スル計劃ヲ樹テタルモ、財政其ノ他ノ關係上未ダ充分ニ實現ノ運ビニ至ラズ。

C 移民ニ關スル施設

樺太廳ノ移住獎勵施設

(天) 土地ニ對スル施設

(1) 土地ノ選定

殖民豫定地ニ付、其ノ地味、地勢、地積、利用ノ種別等ヲ調査選定ス。大正十四年末迄ニ選定ヲ了シタル面積約二十一萬町步ナルコト上述ノ如シ。

(2) 區劃測設

選定調査ヲ終リタル殖民地ハ、移民ノ收容ニ便ニスル爲區劃ヲ測設ス。一區劃ハ七町五反步又ハ五町步トシ、農家一戸ノ收容地ニ充ツ。

道路敷地及防風林ハ地形ニ應ジテ適當ニ存置ス。又在來部落ノ存在スル所及地形上將來一部落ヲ形成スベキ地ニハ部落宅地ヲ設ケ、傍ラ公共用地、共同放牧地等ヲ豫定存置ス。

明治三十九年本事業開始以來大正十四年末迄ノ區劃ハ、農耕地約十四萬四千八百町步、牧場地約二萬五千町步ナリ。部落宅地ノ區劃ハ之ヲ大別シテ農村及漁村ノ二種ト爲ス。農村部落宅地ハ主トシテ殖民區劃地ニ於ケルモノニシテ、漁村部落宅地ハ沿海各地ノ漁村ヲ形成スル見込ノ地ニ測設セルモノナリ。一戸分ノ面積概ネ前者ハ九百坪、後者ハ三百坪乃至六百坪トス。大正十四年末迄ノ部落宅地區劃ハ二千二百七十四町步ナリ。

市街ヲ形成スベキ地ニハ市街宅地ヲ測設ス。大正十四年末迄ノ區劃市街宅地ハ三百八十七町步ナリ。其ノ他公共用地、事業地等ノ區劃測設ヲ行ヒ、大正十四年末迄ノ總區劃面積ハ二十萬五千九百町步ニ上レリ。

(3) 土地改良

農牧適地中、肥沃ナルモ、低濕ニシテ直ニ利用シ難キ所少カラズ。之等ノ地ニハ、先ヅ排水ヲ行ヒ土地ノ乾燥ヲ圖ルヲ急務ト爲スガ故ニ、明治四十三年以來各地ニ大排水溝ヲ掘鑿セリ。其ノ延長約二十萬四千間ナリ(幹線排水溝)。然レドモ低濕地ノ改良ハ、幹線大排水溝ノミヲ以テハ完キヲ期シ難キモノアルヲ以テ、更ニ大正四年以來農民ニ補助金ヲ給シ、各自ノ農耕地内ニ小排水溝ヲ掘鑿セシム。其ノ延長約二十四萬間ナリ(補助排水溝)。前記排水ノ施設ト相俟ツテ、大正二年以來農村部落民ニ補助金ヲ給シ、部落殖民地内及部落間ニ所謂農耕道路ノ開鑿ヲ獎勵シ、農村部落ノ交通ノ便ヲ計レリ。其ノ延長約四十八萬五千間ナリ(補助農耕道路)。此ノ外、官營ニテ農耕道路ヲ敷設セルモノ延長七萬六千間ニ及ベリ(幹線農耕道路)。(大正十四年度未現在)

(地) 移民ニ關スル施設

(1) 移民ノ汽車汽船賃ノ割引

樺太移民ニハ鐵道省ニ於テ發行シタル割引券ヲ交付シテ、樺太迄ノ旅客運賃ハ其ノ二割五分乃至五割引、同シク荷物運賃ハ二割引乃至五割引トシ、又樺太内ハ旅客及荷物共ニ一切無料トス。

(2) 移民取扱所及休泊所

青森、函館、小樽、稚内ノ諸港ニハ樺太廳移民取扱所ヲ設ケテ移民ノ保護指導ニ任ジ、且小樽、稚内及大泊ニハ移民休泊所ヲ設置シ、實費ヲ以テ休泊セシム。又毎年移民ノ渡航多キ季節ニハ、本島主要ノ上陸地及多人數ヲ收容スベキ殖民地ニ移民休泊所ヲ設置シ、其ノ休憩宿泊ニ充テ、支應其ノ他ノ吏員出張シテ之ヲ保護指導ス。

(3) 土地ノ貸付及讓與

未開地ハ一戸ニ付五町乃至七町五反步ヲ標準トシテ無償貸付シ五箇年以内ニ規定ノ家畜(一萬坪以下ハ不要、一萬坪以上一萬五千坪以内ハ馬又ハ牛一頭、ソレ以上一萬坪ヲ増ス毎ニ馬又ハ牛一頭ヲ増加ス)ヲ有シテ其ノ土地ニ住居シ、十分ノ七以上ヲ開墾シタルトキハ、其ノ全部ノ貸付地ヲ無償ニテ讓與ス。

(4) 開墾費補助

移住ノ翌年八月末日迄ニ一町步以上ヲ開墾作付シタル者ニハ、金十圓以内ノ開墾補助金ヲ給ス。

(5) 移住費補助

從來ハ移民一戸ニ付十五圓以内ノ移住費ヲ補助スルト共ニ、地上ノ立木ハ全部移民ノ自由處分ニ委セシガ、近時木材價格ノ騰貴ニ伴ヒ、農業者トシテ最モ重要視セザルベカラザル土地ノ肥瘦、交通ノ便否等ヲ度外視シテ、專ラ地上立木ノ價值ニ依リ入地セントスル者増加シ、其ノ結果、伐木後ニ於テ開墾ノ困

難、交通不便等ノ理由ニ依リ其ノ土地ヲ放棄スル者尠カラズ。爲ニ開墾ノ事業遅々トシテ進マザルノミナラズ、國庫ノ蒙ル損害モ亦少カラザルヲ以テ、大正十五年度ヨリ、農業移民ニ對シテハ土地ノミヲ貸付ケ、地上ノ立木ハ官自ラ之ヲ伐採シ、其ノ收入ヲ以テ移民ノ獎勵金ニ充ツルコトトセリ。即チ大正十五年度ニ於テハ移民一戸ニ對シ三百圓ノ移住費補助ヲ爲スコトトシ、計五百戸分、十五萬圓ノ移住獎勵補助費ヲ豫算ニ計上セリ。

(6) 家畜移入及購入補助

島外ヨリ普通牛馬又ハ種畜ヲ移入シタルトキ、又ハ島内ヨリ種畜ヲ購入シタルトキハ、普通牛馬一頭ニ付五十圓以内又種畜牛一頭ニ付二百圓以内馬一頭ニ付三百圓以内ノ補助金ヲ交付ス。大正十四年度家畜移入及購入補助額八、八四四圓ナリ。

(7) 農具購入補助

農産製造及農家ノ副業ニ要スル器具機械ヲ購入シタルトキハ、買價ノ三分ノ一乃至三分ノ二ヲ補助ス。

(8) 工事又ハ事業補助

部落民共同シテ農耕道路ヲ設ケ又ハ各自其ノ耕地内ニ排水溝ヲ掘鑿シタルトキハ、工事費ノ約三分ノ一ヲ補助ス。

(9) 家畜貸付

牧畜業者ニ非ザル農業移民ニハ五箇年間牛馬ヲ貸付シ、仔畜若ハ代畜ヲ償還スルトキハ、親畜ハ受貸付者ノ所有ニ歸ス。大正十四年末現在貸付家畜數牛七十九頭、馬六百六十七頭ナリ。

(10) 種畜貸付及飼養費補助

部落民共同シテ牧畜ヲ爲ストキ、又ハ牧畜ヲ主トスル農業者ニハ、種畜ヲ貸付シ且其ノ飼養費ヲ補助ス。

(丁) 南洋群島

A 概説

從來、南洋群島ニ於ケル移民事業ハ主トシテサイパン島ニ於テノミ行ハレタリ。即チ大正七年西村拓殖株式會社ハ主トシテ朝鮮人及沖繩縣人ヲ招致シ、續イテ南洋殖産株式會社ハ小笠原島ヨリ移民ヲ入レ、大正十一年前記會社ガ南洋興發株式會社トナルニ及ビテモ、前記各地ヨリ募集スルコトトセリ。目下南洋興發株式會社ハサイパン島内第一、第二及第三農場ニ移民ヲ容レ、其ノ收容世帯數大正十五年末現在十七部落、計七八五戸、總計約四千人ニ上レリ。

B 將來ノ移民計畫及移民收容力

南洋興發株式會社ニ於テハ、大正十四年九月ヨリ大正十五年十二月迄ニ移民八百人ヲ入レ、移民ノ總數約四千人ニ達セリ。更ニ第二期事業トシテハ、テニアン島内ニ昭和三年及同四年迄ニ約七千人、第三期事業トシテ、ロタ島ニ昭和七年ヨリ同九年迄ニ約三千人ノ移民ヲ收容スル計畫ナリ。

本群島ニハ相當移住適地ヲ存スル見込ヲ以テ、目下南洋廳ニ於テモ調査中ナルヲ以テ、將來相當ノ移民ヲ收容シ得ベシト雖モ、地域狹少ニシテ氣候風土ノ異レル土地ナルヲ以テ、内地人人口ノ收容地トシテハ、到底多大ノ期待ヲ爲スコトヲ得ズ。

C 南洋興發株式會社ノ移民ニ關スル施設

(1) 土地ノ割當

土地ハ總テ讓渡セズ、小作制度ニ依リテ甘蔗作ニ従事セシムルモノニシテ、一戸ニ付三町乃至五町步ヲ割當テ、其ノ契約期間ヲ三年トス。但シ希望ニ依リ期間後之ヲ繼續スルコトヲ得。

(2) 家屋及納屋建築費ノ貸付

建築材料ノ大部分ハ實費ヲ以テ販賣シ、其ノ資金ハ會社ヨリ貸付シ、毎年ノ收穫物中ヨリ月一分ノ利子ヲ附シテ返濟セシム。

(3) 農具購入費

農具ハ會社ニ於テ實費ヲ以テ販賣シ、購入資金ハ前述ノ方法ニ依ル。但シ利子ヲ附セズ。

(4) 耕牛購入費

耕牛購入ニ對シテハ其ノ費用ノ全部、又ハ一部ヲ會社ヨリ貸付ス。

(5) 移民生活費

生活物資ハ不自由ナク販賣セラレツツアルモ、移民ニ對シテハ、特ニ會社直營ノ賣店ニ於テ廉價ニ供給シツツアルヲ以テ、生活費ハ極メテ低廉ニシテ、一箇月十四五圓ヲ以テ足ル。

(6) 教育、衛生等ノ施設

會社ニ於テ相當ノ施設ヲ爲シ、不便ナカラシム。

(二) 移住適地ニ關スル調査

國內移住方策ニ於テハ其ノ移住適地及移住適地ニ於ケル本業及副業ノ種類及其ノ收容力等ニ關スル調査ハ素ヨリ、農業移民ニ關スル調査ヲ以テ基本的ナルモノトスベキモ、之ノミヲ以テ其ノ全體ト爲スベカラズ。農業ノ發達ニ伴フ各種加工工業ノ種類及其ノ從業労働者ニ關スル調査、竝ニ漁業、林業、商業等ニ關シ綜合的調査ヲ要スベキモノトス。

次ニ各地方別ニ府縣、北海道、朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島、關東州ニ於ケル移住適地面積、事業及其ノ收容力ヲ見ルニ凡ソ左ノ如ク、開墾見込地ハ内地府縣、北海道、樺太及南洋群島ニ多ク、其ノ面積約二百五十萬町步ニ達シ、移住者ノ收容能力ハ凡ソ五百七十八萬一千三百八十五人ナリ。而シテ農業以外ノ漁業、工業、

鑛業、商業等ニ從事スベキ移住者豫定人員ハ凡ソ百六十五萬人ナリ。

地方區別	可耕地面積	移住者ノ從事スベキ事業ノ種類	收容人口	備考
府縣	一、一五九、五三三	農	四、八三一、三八五	農林省調査
北海道	七八二、〇〇〇	農 工 商 業	六七〇、〇〇〇	北海道廳調査
朝鮮	二〇〇、〇〇〇	農	不	朝鮮土地改良會社ノ開墾手拓豫定面積入殖者ハ多ク鮮農ナルベシ。
臺灣	不明	農	不明	内閣拓殖局ノ調査ニ依レバ木島人ノ移住計畫ニ幾分ノ見込ミアリ。
樺太	二二二、〇〇〇	農 漁 業	二五〇、〇〇〇	内閣拓殖局調査ニ依ル。
關東廳	ナシ	工業、鑛業、商業其ノ他	三〇〇、〇〇〇	同
南洋廳	一〇〇、〇〇〇	農	三〇、〇〇〇	内閣拓殖局ノ調査ニ依レバ關東廳管内ニ於テハ見込ミナシ。
計	二、三六三、五三三	農業、漁業、林業、工業、鑛業其ノ他	七、四三一、三八五	南洋興發會社ノ事業計畫ニ基クモノナリ。

(三) 移住地諸施設及移住方法ニ關スル調査

(一) 移住地諸施設ニ對スル補助及助成ノ擴充

國內移住ノ要諦ハ其ノ移住者ノ生活ヲ安定幸福ナラシメ、以テ其ノ地ニ定著セシムルニ在リ。即チ單ニ

農業労働者其ノ他ノ移住者ヲ移住セシメタリトノ事實ノミヲ以テ満足スベキニ非ズシテ、此等移住者ノ移住後ノ生活全體ヲ快適ナラシムベク、交通機關、金融機關、神社、寺院、公會堂等各種ノ社會的施設ハ固ヨリ、住宅、衛生、教育、娛樂等各般ノ方面ニ涉リテ慎重ナル考察ヲ遂ゲ、夫々適切ナル保護ヲ加フルヲ要ス。

此等諸施設ヲ整備シ移住ノ目的ヲ達成セシムル爲、國及地方公共團體並ニ植民地官廳ハ、之等施設ニ對シ適當ナル補助ノ途ヲ開クト共ニ、必要アル場合ニ於テハ、國及地方公共團體並ニ植民地官廳自ラ之ヲ施設シ、移住地ノ完成ヲ助成スベキ要アリ。以下移住地ニ於テ特ニ必要ナル諸施設ト之ニ對スル助成方法トヲ述ブベシ。

(1) 住宅資金ノ補助並ニ貸付

移住地ニ於ケル住宅ノ問題ハ、移住地建設事業成否ヲ決定スル鍵輪ニシテ、從來住宅建設資金ノ不足ニ依リテ開墾事業ノ完成ヲ遲滞セシメタル事例乏シカラズ。仍テ移住者ノ住宅建築資金ニ對シテハ、國及府縣ニ於テ從來補助金ヲ交付シタルモ、此ノ外ニ低利資金ノ長期貸付ヲ爲スコトヲ要ス。

(2) 社會的施設ニ對スル補助

共同宿泊所、共同浴場、共同托兒所、集會所、小學校、簡易醫局、產婆避病舍、神社、寺院、墓地、簡易水道、簡易電燈設備其ノ他娛樂機關等ノ建築費又ハ新設費ニ對シテハ、相當補助ノ途ヲ開クト共ニ、其ノ殘額ニ付キテハ低資ノ長期貸付ヲ爲スコトヲ要ス。但シ學校醫局、產婆神社、寺院等ノ建設又ハ設置費ニ付テハ、國又ハ地方公共團體、植民地官廳ハ成ルベク全額補助ヲ爲スコトヲ要ス。

(3) 農業上ノ施設ニ對スル補助

移住地ニ於ケル農村經濟及生産能率ノ増進ヲ圖ル目的ヲ以テ施設スル農業倉庫、共同精米場、共同養蠶

場、共同搾乳所、共同家畜飼育所、種牛馬場、共同厩舍、共同乾燥場、共同使用農具等ノ建設及購入費ニ對シテハ、相當補助ノ途ヲ開クト共ニ、其ノ殘額ニ付テハ低資ノ長期貸付ヲ爲スコトヲ要ス。

(二) 移住方法及移住地經營事業ノ促進ヲ圖ルニ必要ナル方策

農民移住ノ場合ニ於テモ、將又漁民移住ノ場合ニ於テモ、團體的移住ヲ以テ適切トス。蓋シ移住者數ハ移住地ニ於ケル收容力ノ大小ニ依リテ必然的ニ決定セラルベキモノナリト雖モ、移住地ニ於ケル諸種ノ社會的並ニ農業上ノ施設ハ集團的移住ノ場合ニ於テ一層其ノ效用ヲ發揮セラルベケレバナリ。

今日迄ニ調査セラレタル府縣、北海道、各植民地官廳内ニ散在スル可耕見込地ノ面積ハ、凡ソ二百三十六萬町歩ニシテ、收容人口ハ七百四十三萬人ナリ。人口食糧問題解決上、此等可耕農地ニ對シ、農民ノ團體的移住ヲ圖ツテ之ガ開發ヲ期スベキモノトスルモ、實際斯ル廣大ナル面積ノ開墾移住事業ヲ遂行センガ爲ニハ、單リ移住地ニ於ケル諸施設ニ對スル助成ヲ充分ナラシムルニ止ラズ、一面ニ於テ開墾事業ニ關係アル現行諸法規ノ改正、移住組合ノ獎勵、國內拓殖會社ノ設立、移住者ノ移住ニ對スル無賃輸送ノ開始等、統制アル各般ノ施設ヲ講ズルノ要アリ。

(1) 移住組合ノ獎勵

現今府縣各地ニ於テ計畫實施セラレツツアル開墾又ハ干拓事業ハ、概ネ耕地整理組合法ニ依ル組合ガ、開墾助成法ノ助成ヲ受ケテ施行シツ、アル小規模ノモノニ屬ス。而シテ大規模ノ計畫ノ下ニ多額ノ事業費ヲ要スル事業ニ於テハ、到底斯ノ如キ小資團體或ハ個人ノ企畫シ能ハザル所ナルヲ以テ、現ニ府縣ノ民有地内ニ於テモ、五十町歩以上ノ開墾見込地約七十萬町歩ハ各所ニ散在シ、未利用ノ儘放置セラレ居ル状態ナリ。尙ホ國有林野及北海道、朝鮮、樺太、南洋群島ニ於ケル開墾見込地ヲ加フレバ、優ニ二百五十萬町歩以上ノ大面積トナルベシ。之等大面積ノ開墾見込地ニ對シ農民ノ團體的移住ヲ圖リ、移住地ノ

建設ヲ促進セントセバ、海外移住組合ノ如キ相互扶助ノ方法ニ依ル團體的移住ヲ獎勵スルヲ最モ適當ナリト認ム。

(2) 國內拓殖會社ノ設立

樺太ニ於ケル國內移住方策ニ就キテハ、從來ニ於テモ亦現在ニ於テモ官營植民計畫ノ外之ヲ見ル能ハザルモ、此ノ方面ニ對スル國內移住ノ促進ヲ圖ラントセバ、單リ官營植民計畫ノミニ俟ツコトナク、寧ロ植民事業ト投資企業トヲ兼營スル國內拓殖會社ヲ設立シ、政府援助ノ下ニ、官營植民事業ト併進セシムルヲ適當ナリト認ム。

樺太拓殖會社ニ關スル調査ハ、調査項目第二部第六項ニ付テ之ヲ述ブベキガ故ニ、此處ニハ省略ス。

(3) 内外移民取扱方法ノ統一ニ關スル事項

現今我國ニ於ケル内外移植民ノ募集竝ニ移住取扱ニ關スル事務ハ、既ニ相當複雑ナルモ、將來移植民事業ノ進展ニ伴ヒ、各事業團體ノ移民募集竝ニ取扱事務ニ關シ、再ビ昔日ノ競争ヲ惹起スルノ虞アリ。斯ノ如キハ單リ移民ノ損害タルニ止マラズ延テハ事業團體ノ損害多大ナルベシ。然ノミナラズ、移植民取扱ニ關スル事務ハ性質上職業紹介事務ノ範圍タルヘキガ故ニ、移植民ノ保護獎勵ガ國策タルノ今日、依然トシテ移民取扱事務ヲ營業者タル移民取扱人ニ委ヌルガ如キハ、公益職業紹介事業ノ精神ニモ反スルモノト謂フベシ。仍テ將來適當ナル時期ニ於テ、移民取扱ニ關スル事務ヲ公益職業紹介所ヲシテ取扱ハシムルヲ適當トスルベシ。

(四) 鐵道ニ依ル移民輸送ニ關スル調査

一 施設

現在鐵道省及之ト連帶運輸ヲ爲ス會社線ニ於テハ、移住民ノ負擔ヲ幾分ナリト輕減シ、以テ移住、出稼ノ獎勵ニ資センガ爲、左ノ地ニ移住スル者ニ對シ、所定ノ割引證ヲ收受スルカ又ハ確認ノ上、旅客運賃及手荷物運賃竝ニ引越荷物運賃ノ割引ヲ實施シ居レリ。

- (一) 北海道。
- (二) 本土、四國、九州及沖繩開墾地。
- (三) 樺太。
- (四) 朝鮮。
- (五) 臺灣。
- (六) 關東州。
- (七) 南滿洲。
- (八) 南米諸國、西印度諸島、大洋洲諸島(布哇及米領グアムヲ除ク)、比律賓群島、濠洲、東印度諸島、英領海峽殖民地。

二 運賃割引率

旅客運賃ハ移住地ニ至ル順路ニ由リ片道一回限り二等普通運賃ノ五割、手荷物ノ運賃ハ通常手荷物運賃ノ五割、引越荷物ハ普通貨物運賃ノ二割ヲ低減シ居レリ。

三 乘車等級及制限

移民ニ對シテハ、其ノ性質上乘車等級ハ二等ニ限定シタルト、高率ノ割引ヲ爲シ居レルガ故ニ急行列車券ヲ要スル急行列車ニ乗車シ若ハ優等級ニ乗換ヘヲ爲スガ如キコトハ認メザルコトトセリ。

四 運輸成績

大正十五年度ニ於ケル移民ノ輸送量ハ一〇、九三一人(運賃ノ割引控除額四六、二二七圓)一ヶ月平均九一〇人トナリ、過去數年間ニ比シ年々多少増加ノ傾向ヲ有ス。
 移民ノ移動ハ所謂移民期節トモ稱スル三、四月ガ最モ旺盛ニシテ、一箇年總數ノ約五割ヲ占メ居レリ。之云フ迄モナク、冬期ヲ過ギ、勞働期節タル春、夏期ニ入ラントスル時期ナルヲ以テナリ。
 (別表第一號表參照)

移民ノ移動ヲ行先ニ依リ區別セバ、

北海道 四、五四九人(總數ノ約五割)。

本土、四國、九州及沖繩開墾地 七一人。

樺太 一、二〇四人(總數ノ約一割)。

朝鮮 一三六人。

臺灣 一人。

關東州 一人。

南滿洲 五人。

南米諸國 四、二五四人(總數ノ約四割)。

比律賓群島 五九〇人。

東印度諸島 一二〇人。

西印度諸島、大洋洲諸島、濠洲、英領海峽殖民地ハ何レモナシ。

合計 一〇、九三一人(第二號表參照)。

尙ホ乘車地別、行先別移動狀態ハ第二號表ノ如シ。
 第一號表

移住民割引人員

月別	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度
四月	一、五六五	一、五一三	二、三五九	二、一〇〇	二、二三六
五月	九八二	一、〇一〇	一、〇〇四	一、一五四	一、四三三
六月	四九四	五六六	八一二	八四〇	七六一
七月	三八三	三七八	四七五	一、〇二四	七五三
八月	三六三	四八二	四二七	五二一	八五三
九月	五三四	三一九	四六八	七〇六	七九五
十月	二七八	六一六	七七〇	五四一	七二八
十一月	四九三	四三〇	四一一	五二三	七六二
十二月	四〇五	六五四	一一、一九一	五三四	三〇八
一月	二五八	二九〇	四五四	七四五	三九六
二月	三九四	四二五	六七九	八二三	六七一
三月	一、二七七	九三九	一九七四	二、二七八	一、二三五
合計	七、四二六	七、六二二	一一、〇一六	一一、七八九	一〇、九三一
一箇月平均	六一九	六三五	九二八	九八二	九一一

第二號表

移民乘車人員行先別調 (大正十五年度)

行先地方別	東京	名古屋	神戸	門司	仙臺	札幌	幌	計
北海道	二九四	七二六	一、三六三	三二一	一、八一二	四三	四、五四九	四六
本 土								
開墾地								
四 州								
九 州								
沖 繩								
樺 太	四四	五六	二二二	四三	三八四	四五五	一、二〇四	一三六
朝鮮			六六	四九	二二			一
關 東 州								一
南 滿 洲				四				五
南 米 諸 國	二二六	二二〇	一、二八二	二、一〇〇	一九〇	二二六	四、二五四	
西 印 度 諸 島								
大 洋 洲 諸 島								
比 律 賓 群 島	二	一七	六〇	四〇二	一〇九			五九〇
濠 洲								
計	五八〇	一、〇二三	二、九九三	三、〇四九	二、五六二	七二四	一〇、九三一	一一〇

東 印 度 諸 島	英 領 海 峽 殖 民 地	計
四	五八〇	一、〇九四
一一六	二、九六二	三、〇七八
二二六	二、九六二	五、二四〇

〔五〕 船舶ニ依ル移民輸送ニ關スル調査

第一 北米方面

(甲) シヤトル方面

一 神戸シヤトル線(日本郵船會社)

(一) 航路及寄港地

神戸、横濱、ヴィクトリア、又ハ晚香坡「シヤトル」。

(二) 現在使用船舶

船 名	總 噸 數	速 力	船 齡	一 等	二 等	三 等	計
富 山 丸	七、〇八九	一四	一三	八			八
常 磐 丸	六、九七一	一四	一二	九			九
靜 岡 丸	六、二七〇	一五	一六	三三			九四
横 濱 丸	六、一四三	一五	一六	二八			九〇
伊 豫 丸	五、九六一	一五	二六	三三			一二一
加 賀 丸	五、八六〇	一五	二七	三〇			一一〇

- (三) 航海回数
毎二週一回以上一年期間約二十九航海。
- (四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力
約一四〇〇人。

二 ビューゼットサウンド線(大阪商船會社)
(一) 航路及寄港地
上海神戸横濱「ビクトリア」シヤトル。

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送力		
				一等	二等	三等
ありぞな丸	九六一八	一六	七年	三九		一三四
あらばま丸	九六一七	一六	七年	三九		一三四
あふりか丸	九四一五	一六	九年	四二		一三五
あらびあ丸	九四一四	一六	九年	四二		一三五
ぱりい丸	七一七九	一四	六年	二〇		二〇
ろんどん丸	七一七一	一四	六年	二〇		二〇

- (二) 現在使用船舶
- (三) 航海回数
毎二週一回一年期間二十六航海。
- (四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力

約二三〇〇人。

- (乙) 桑港方面
桑港線(日本郵船會社)
(一) 航路及寄港地
香港、上海、長崎、神戸、横濱、「ホノルル」、桑港。
- (二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送力		
				一等	二等	三等
大洋丸	一四四五七	一六	一六年	三四四	一八八	四二六
天洋丸	一三、四〇一	二〇	二〇年	一九五	八四	五〇九
春洋丸	一三、〇三九	二〇	一七年	一四七	八二	四四二
これや丸	一一、八〇九	一八	二七年	一五一	四一	四三二
NS入り丸	一一、七九〇	一八	二七年	一四三	四一	四三二

- (三) 航海回数
毎月二回一年期間二十四航海。
- (四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力
約一〇、八〇〇人。

第二 南米方面
(甲) 東海岸方面

一 南米東岸線(日本郵船會社)

(一) 航路及寄港地

横濱、神戸、門司、香港、新嘉坡、「モンパサ」、「デラゴアベ」、「ダーバン」、「ケープタウン」、「リオデジャネイロ」、「サントス」、「ベノスアイレス」。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客			計
				一等	二等	三等	
若狹丸	六〇七〇	一四	三〇年	四〇人		四〇人	六五〇人
博多丸	五九七〇	一四	三二	九			七一〇人
神奈川丸	五八五三	一四	三一	九			七一〇人
鎌倉丸	五八四六	一五	三一	二七			五七〇人
河内丸	五七九八	一四	三〇	九			七一〇人

(三) 航海回数

毎三箇月二回一年期間十航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力

約六、七〇〇人。

二 南米航路東岸線(大阪商船會社)

(一) 航路及寄港地

横濱、神戸、長崎(はわい丸)、まにら丸ノミ寄港、香港、新嘉坡、「ケープタウン」、「サントス」、「リオデジャネイロ」。

ロ「ベノスアイレス」、「サントス」、「リオデジャネイロ」、「クリストバル」横濱。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客			計
				一等	二等	三等	
はわい丸	九、四五四	一六	一二年	一三			七〇〇人
まにら丸	九、四四五	一六	一二	一五			七〇〇人
らぶら丸	七、二六六	一六	二	四〇			七九〇人
もんでび丸	七、二六六	一六	二	四〇			七九〇人
さんと丸	七、二六六	一五	二	四〇			七六八人

(三) 航海回数

毎三箇月二回以上一年期間十航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力

約七、五〇〇人。

(乙) 西海岸方面

南米航路西岸線(日本郵船會社)

(一) 航路及寄港地

香港、門司、神戸、横濱、「ホノルル」、「マンザニーヨ」又ハ「サリナクルス」、「カイヤオ」、「イキーケ」、「バルパライ」。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客			計
				一等	二等	三等	
樂洋丸	九四一八	一五	七年	四二	五一	六六八	七六一
安洋丸	九二五六	一五	一五	三二	六二	五九六	六九〇
墨洋丸	八六〇三	一四	三	三七	五三	四四八	五三八
銀洋丸	八六〇〇	一四	六	三七	五一	四五六	五四四

(三) 航海回數

毎三箇月二回一年期間八航海。

(四) 一箇年ニ於ケル三等旅客輸送能力

約四、四〇〇人。

第三 濠洲方面

一 横濱メルボルン線(日本郵船會社)

(一) 航路及寄港地

横濱、神戸、長崎、香港、「マニラ」、「ダヴァオ」、「木曜島」、「タウンズヴヰル」、「ブリスベン」、「シドニー」、「メルボルン」。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客			計
				一等	二等	特別三等	
三島丸	七、九〇四	一六	二〇年	八九	二六	二四	三一〇
丹後丸	六、八九三	一五	二四	九〇	二六	二六	一三二

安藝丸	六、〇三三	一五	二五	五〇	一六	二六	二六八	三六〇
-----	-------	----	----	----	----	----	-----	-----

(三) 航海回數

毎月一回一年期間十二航海。

(四) 一箇年ニ於ケル三等旅客輸送能力

約三、二〇〇人。

二 濠洲線(大阪商船會社)

(一) 航路及寄港地

横濱、名古屋、神戸、門司、「マニラ」、「ブリスベン」、「シドニー」、「メルボルン」。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客			計
				一等	二等	三等	
ひまらや丸	五、二二九	一五	一〇年	六			六
びるま丸	四、五八五	一三	一〇	八			八
まどらす丸	三、八〇二	一四	八				

(三) 航海回數

毎月一回一年期間十二航海。

(四) 一箇年ニ於ケル三等旅客輸送能力

ナシ。

第四 南洋方面

(甲) 瓜哇方面

マ 南洋線(大阪商船會社)

(一) 航路及寄港地

横濱、名古屋、大阪、門司、基隆、マニラ、タリオ、バタビヤ、サマラン、スラバヤ。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送力		
				一等	二等	三等
ばたびや丸	四、三九二	二二	九年	二二	一八八	二〇〇
すらばや丸	四、三九一	二二	九年	二二	一八八	二〇〇
がんどす丸	四、三八二	二二	一〇	二二	一八八	二〇〇

(三) 航海回數

毎月一回一年期間十二航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力

約二、三〇〇人。

ニ 瓜哇線(南洋郵船會社)

(一) 航路及寄港地

神戸、門司、香港、バタビヤ、チユリボン、サマラン、スラバヤ、マカツサー、又ハバリクパパン、香港、門司、神戸。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送力		
				一等	二等	三等
チユリボン丸	四、〇三一	二四	七年	二六	三七	六三
マカツサー丸	四、〇一四	二三	七年	二六	三五	六一
サマラン丸	四、〇一三	二四	八年	二〇	五〇	七〇
パンドン丸	四、〇〇三	二三	八年	二四	三六	六〇

(三) 航海回數

毎三週一回一年期間十八航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力

約七二〇人。

(乙) 南洋委任統治地域方面

内地南洋線(日本郵船會社)

(一) 航路及寄港地

横濱、阪神、門司、二見、サイパン、トラック、ボナペ、クサイ、ヤルト、ヤップ、パラオ、アンガウル、メナド。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送力		
				一等	二等	三等
八幡丸	三、五〇一	一五	二八年	三一	二六	一三六
筑前丸	二、四四九	一四	二〇	二二	一六	八七
筑後丸	二、四四四	一四	二〇	二二	一六	八七
計				七五	五八	二一〇

(三) 航海回數

一年期間十九航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力約二、〇〇〇人。

第五 朝鮮方面

(甲) 東海岸方面

一 大阪清津線(大阪商船會社)

(一) 航路及寄港地

大阪、神戸、宇品、門司、釜山、元山、雄基、清津。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送力		
				一等	二等	三等
臺中丸	三、二二二	一四	三〇年	四二	四四	三〇三
臺南丸	三、一七六	一五	三〇	四二	四〇	三一
計				八四	八四	六一四

(三) 航海回數

每月四回一年期間四十八航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力約一五、〇〇〇人。

二 大阪清津線(朝鮮郵船會社)

(一) 航路及寄港地

大阪、神戸、宇品、門司、釜山、元山、雄基、清津。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送力		
				一等	二等	三等
立神丸	二、四八三	一二	三〇年	六	三〇	一一三
計				六	三〇	一一三

(三) 航海回數

一年期間十七航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力約二、〇〇〇人。

三 釜山浦鹽斯德大阪線(朝鮮郵船會社)

(一) 航路及寄港地

釜山、元山、城津、雄基、門司、神戸、大阪、浦鹽斯德。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送能力		
				一等	二等	三等
釜山丸	一、六二五 <small>噸</small>	二三 <small>海里</small>	八年	九人	四〇人	一二八人
清津丸	一、三二七	二三	七年	九人	三〇人	一五四人
計						一七七人

九四

(三) 航海回数

毎月二回一年期間二十四航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力

約三、四〇〇人。

四 清津敦賀線(朝鮮郵船會社)

(一) 航路及寄港地

清津、城津、元山、宮津、舞鶴又ハ新舞鶴、敦賀。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送能力		
				一等	二等	三等
白頭山丸	二、〇九一 <small>噸</small>	二三 <small>海里</small>	二年	一人	三二人	五〇人
計						八二人

(三) 航海回数

毎月四回一年期間四十八航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力

約二、四〇〇人。

五 内地浦鹽斯德朝鮮東岸線(北陸汽船會社)

(一) 航路及寄港地

伏木、七尾、浦鹽斯德、清津、雄基、城津又ハ元山、新舞鶴、七尾、伏木。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送能力		
				一等	二等	三等
北祐丸	一、四七〇 <small>噸</small>	一二 <small>海里</small>	三年	六人	二八人	一五六人
計						一九〇人

(三) 航海回数

毎月二回一年期間二十航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力

約三、二〇〇人。

(乙) 西海岸方面

一 朝鮮長崎大連線(大阪商船及朝鮮郵船會社)

(一) 航路及寄港地

仁川、鎮南浦、大連、仁川、群山、木浦、釜山、長崎、三角、鹿兒島、長崎、仁川。

(二) 現在使用船舶

九五

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送能力		
				一等	二等	三等
羅南丸	一、三四八	二 <small>海里</small>	一〇年	四	一五	一〇〇
大智丸	一、二〇一	二	二三	六	二五	一六七
				計	計	計
				一九八	二一九	二一九

(三) 航海回數

每月二回以上一年期間三十四航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力

約四、六〇〇人。

二 大阪仁川線(大阪商船會社)

(一) 航路及寄港地

仁川、大連、鎮南浦、群山、木浦、釜山、長崎、三角、鹿兒島、長崎、仁川。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送能力		
				一等	二等	三等
大東丸	一、九五九	二 <small>海里</small>	二七年	九	二〇	六七
大信丸	一、三三三	二	二三	六	二七	一〇四
順丸	九九七	一〇	二二	二	—	—
				計	計	計
				一三七	九六	二二

(三) 航海回數

每月六回一年期間七十二航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力

約六、二〇〇人。

三 朝鮮西岸線(朝鮮郵船會社)

(一) 航路及寄港地

東京、橫濱、阪神、門司、木浦、群山、仁川。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送能力		
				一等	二等	三等
東瀨丸	二、一八六	二 <small>海里</small>	九年	—	二	—
天安丸	二、一五〇	一〇	二三	—	—	二
				計	計	計
				二	二	二

(三) 航海回數

每月二回一年期間二十四航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力

約三五〇人。

四 新義州大阪線(朝鮮郵船會社)

(一) 航路及寄港地

新義州、鎮南浦、仁川、群山、木浦、釜山、關門、神戶、大阪。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送力		
				一等	二等	三等
慶州丸	一、二八三	一〇	九年			
錦江丸	一、二六四	一一	一〇			
						計
						一六
						一三
						一六

(三) 航海回數
每月二回一年期間二十四航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力
約三五〇人。

五 朝鮮北海道大連線(島谷汽船會社)

(一) 航路及寄港地

仁川、大連、鎮南浦、仁川、群山、木浦、釜山、宮津、舞鶴、新舞鶴、敦賀、伏木、函館、小樽。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送力		
				一等	二等	三等
鮮海丸	二、二二六	一〇	二年	八	八	
長成丸	二、〇四〇	一〇	二			
						計
						四〇
						三七
						四五

(三) 航海回數

每月一回以上一年期間二十航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力

約八〇〇人。

第六 臺灣方面

一 基隆神戶線(大阪商船會社)

(一) 航路及寄港地

基隆、門司、神戶。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送力		
				一等	二等	三等
蓬萊丸	九、二〇五	一七	一五年	五	一	二
瑞穂丸	八、五二一	一七	一六年	四	一	二
扶桑丸	八、一八八	一七	一七年	四	一	二
						計
						一三
						六二
						五六一
						七三六
						七九三
						六九一

(三) 航海回數

每月約六回一年期間六十九航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力

約四〇、〇〇〇人。

二 基隆神戶線(近海郵船會社)

(一) 航路及寄港地

基隆、門司、神戶。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送力		
				一等	二等	三等
吉野丸	九,〇〇二 <small>噸</small>	一七 <small>節</small>	一九年	三二	一二六	五五七
信濃丸	六,一五五	一六	二七	三六	九〇	五五六
因幡丸	六,〇〇七	一六	二九	三三	八八	四六七
計						七一五

(三) 航海回數

每月約六回一年期間六十九航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力

約三七,〇〇〇人。

三 高雄橫濱線(大阪商船、近海郵船及山下汽船會社)

(一) 航路及寄港地

高雄橫濱、大阪、神戸、宇品、基隆、馬公。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送力		
				一等	二等	三等
高雄丸	四,二八二 <small>噸</small>	一八 <small>節</small>	一年	六二		五四
桃園丸	三,四六〇	一一	二二	二〇		七九
八雲丸	三,一九八	一二	四			
元明丸	三,一八〇	八	一一	三		
計						一六六

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送力		
				一等	二等	三等
岐阜丸	二,九三三	九	六			
第三日清丸	二,七〇五	八	二二			
計						

(三) 航海回數

每月六回一年期間七十二航海。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力

約一六,〇〇〇人。

第七 樺太方面

樺太線(近海郵船會社)

(一) 航路及寄港地

函館、小樽、大泊、真岡、大泊、小樽、函館。

(二) 現在使用船舶

船名	總噸數	速力	船齡	旅客輸送力		
				一等	二等	三等
千歲丸	二,六六七 <small>噸</small>	一五 <small>節</small>	七年	二七	五三	三〇八
營口丸	一,八四二	一二	二四	一八	二二	六〇
弘前丸	一,三四八	一三	二五	二一	二〇	二〇九
計						三八七

(三) 航海回數

每月六回一年期間七十二航海(夏季四八航海冬季二四航海)。

(四) 一箇年間ニ於ケル三等旅客輸送能力
約一五、〇〇〇人。

第三 國外移住方策ニ關スル調査

(調査項目第二部第四項)

〔一〕 移住適地、事業及移民收容力ニ關スル調査

(A) 伯刺西爾

(一) 移民ニ適スル主ナル事業

サンパウロ州パラナ州ミナスヂエラエス州等ニ於テハ珈琲、棉、雜穀ノ栽培、耕作及養蠶業ナリ。此等諸州ニ於テハ桑葉ノ豊富ナルト氣候ノ關係ニ依リ一年四回五回ノ養蠶可能ニシテ、現ニサンパウロ州政府ハ銳意養蠶ヲ奨励シツツアリ。現在ハ養蠶方法幼稚ナルガ爲メ未ダ成績ノ見ルベキモノナキガ如キモ、本邦ノ優秀ナル養蠶方法ヲ彼地ニ適用シ同時ニ製絲業ヲ起スニ於テハ、養蠶業ハ本邦移民ニ取り好箇ノ産業タルベシト思ハル。

バイア州、ベルナンブコ州等北部大西洋岸諸州ニ於ケル棉作、アマゾン河流域ニ於ケル護謨、棉、烟草、米、雜穀ノ栽培耕作ハ本邦移民ニ取り有望ナリ。アマゾン河流域ハ從來瘴癘住ムベカラザル地方トシテ知ラレタルモ、逐次調査ノ結果其ノ富源ノ大ナルコト、開發ノ可能ナルコト次第ニ明トナリ、最近米國自働車王ヘンリー・フォードハ早クモ此處ニ著目シ、其ノ需要スル護謨ノ栽培ヲ企テツツアリ。

(二) 本邦移民ノ收容力

サンパウロ州ヲ中心トスル珈琲栽培業ハ世界珈琲産額ノ約五割ヲ産出スルノ盛況ニシテ、栽培業ノ需要スル外國勞働移民ハ年年八萬乃至十二三萬ノ移民アリ。伯國側ノ統計ニ依レバ一九二五年中ノ入移民統計中八四、八八三人、此ノ中本邦人六、三三〇人ヲ占ム。本邦勞働移民ニ對スル需要ハ次第ニ増加シ

ツツアルモ、伯國議會ニハ一九二三年レース法案ナル東洋人移民制限法案提出セラレ、爾來本邦移民ニ對スル可否ハ機會アル毎ニ論議セラレ、事態動モスレバ我移民ニ不利ナル形勢トナル虞アルニ鑑ミ、勞働移民ノ送出ハ漸次増加セシムルモ一年一萬五千位ヲ以テ最大限度トシ、此ノ他ニ一年約五千以内ノ移民ヲ移住組合及會社ノ企業ニ依リ送り得ベク、總計一年二萬ヲ以テ限度ト爲スコト得策ナルベシ。只アマゾン流域ノ二州ハ州政府ニ於テ本邦移民ノ手ニヨリテ州ノ開發ヲ行ハントスルノ希望切ナルモノアリテ、本邦企業者ニ對シ廣大ナル官有地ノ無償提供ヲ爲サントシツツアル程ナルヲ以テ、同地方ニ對スル本邦資本家ノ企業ニ伴フ移民ハ相當入殖ノ可能性アリ。最近本邦資本家ノ計畫シツツアル一千萬圓會社案ニ依レバ、百萬町歩ノ無償拂下官有地ニ殖民事業ヲ行フモノトシ、其ノ一會社ノミニテ十年間ニ一萬戶(約五千人)ノ移民ヲ之ニ入殖セシメ得ベキ計算ナリ。

(三) 資料

移民地事情 第八卷、第十一卷、第十二卷。

伯刺西爾ヲ中心トスル南米事情。

(B) 亞爾然丁、附ウルガイ及パラガイ國

(一) 移民ニ適スル主ナル事業

亞國チャコ及フォルモサ地方ニ於ケル棉花ノ栽培ハ最近政府ノ獎勵ニ依リ次第ニ隆盛トナリツツアリ。又チャコ其ノ他ノ地方ニ於ケル米作、蔬菜作モ有望トセラル。ウルガイ及パラガイ國ニ於テモ略同様ナリ。

(二) 本邦移民ノ收容力

亞國、ウルガイ及パラガイ國ニハ伯國ニ於ケル珈琲ノ如キ大産業未ダ起ラザルガ爲メ、本邦勞働移民ノ需要ナキモ、移住組合及會社企業ニ依ル殖民ハ頗ル有望ナリ。此ノ如キ企業ニ依リ果シテ幾何ノ本邦移

民ヲ入殖シ得ベキヤ疑問ナリト雖モ、右三國ヲ通計シテ現ニ伯國ニ渡航シツツアル程度ノ移民數即チ一年六、七千ヲ入ルルヲ得ベシト思ハル。現在本邦移民ガ伯國ニノミ集注シテ亞國ヲ省ミザル形アルハ、已ムヲ得ザル事情ニ出ツト雖モ、移民伯國中心主義ニ對スル反對論ハ亞國ニ於ケル本邦有識者ニ依リテ近時唱道セラルル所ナリ。

(三) 資料 亞爾然丁一班事情。

對亞國移植政策。

移民地事情第七卷、第九卷。

亞爾然丁移民ノ榮。

(C) 智利

(一) 移民ニ適スル主ナル事業

同國ハ鑛産、牧畜以外ニ見ルベキ産業ナク、只中部地方ニ於ケル小麥、果樹ノ栽培ハ有望ナリ。

(二) 本邦移民ノ收容力

本邦移民ノ事業トシテハ農業ナルモ、同地ニ移民的企業ヲ爲ストシテ果シテ幾何ノ移民ヲ收容シ得ルヤ疑問ナリ。

(三) 資料 目下印刷中。

(D) ホリビヤ國

(一) 移民ニ適スル主ナル事業

護謨、コカ、煙草、果樹ノ栽培。

(二) 本邦移民收容力

ポリビヤハ鐵富源ヲ有スルコト無盡藏ト稱セラル。將來富源開發セラレ、産業起ラバ、移民ノ需要痛切トナリ、本邦移民モ相當移住ノ可能性アルベシ。

(三) 資料

移民地事情第六卷。

(E) 祕露國

(一) 移民ニ適スル主ナル事業

小商業、棉作業。

(二) 本邦移民ノ收容力

現在ハ一年九二二(大正十四年)乃至一二五〇(大正十五年)人位ノ本邦移民ノ渡航ヲ見ルニ過ギザルモ、而モ排日ノ氣勢盛ナルニ鑑ミ、現在以上ノ移民ヲ送ルハ不得策ナリ。

(三) 資料 無し。

(F) 哥倫比亞國

(一) 移民ニ適スル主ナル事業

太平洋沿岸カウカバレーニ於ケル米作、煙草、甘蔗其ノ他ノ農業。

(二) 本邦移民ノ收容力

同國ハ交通不便ナル高山國ニシテ、氣候及地理的關係ヨリ見テ差當リ本邦移民ノ農企業ニ適スルハ太平洋沿岸カウカバレーナルガ、本邦移民ノ收容力ハ之ヲ見積ルヲ得ズ。先以テ試験的ニ數家族ノ企業移民ヲ試ルヲ可トスベシ。

(三) 資料 移民地事情第十四卷。

(G) 墨西哥

(一) 移民ニ適スル主ナル事業

小商業、棉、米、蔬菜、果樹ノ栽培及漁業。

(二) 本邦移民ノ收容力

勞働移民ハ收容力ナシ。會社企業ニ依リ移民ハ當分數年間一年五百人位ヲ容レ得ベキ見込ナリ。

(三) 資料 移民地事情第十卷。

(H) 比律賓

(一) 移民ニ適スル主ナル事業

麻栽培。

(二) 本邦移民ノ收容力

現在ハ一年約二千五百ノ勞働移民ヲ限度ト爲シ居ルモ而モ、比島側ニテハ本邦移民ノ増加ヲ氣ニシツツアル實情ナルヲ以テ、將來漸増ノ方針ニテ進ミ、茲暫クハ一年二千五百乃至三千程度ニ止ムルヲ得策トス。

(三) 資料 第一回貿易會議準備資料第一、第六、第六追補。

(I) 蘭領東印度諸島、英領ホルネオ、マレー半島及暹羅

(一) 移民ニ適スル主ナル事業

前三者ニ於テハ護謨、椰子、米、砂糖等ノ栽培、耕作及小商業。

暹羅ニ於テハ緋、米ノ耕作。

(二) 本邦移民ノ收容力